



人類への奉仕はロータリーの礎であり、世界で意義ある奉仕を行う最善の道はロータリー会員になることである。

国際ロータリー会長
ジョン F. ジャーム



八木 勉会長

津久井中央ロータリークラブ

国際ロータリー 2780 地区

会長 八木 勉
幹事 高橋幸一
会報委員長 具 尚禮
会報発行 事務局

事務所・例会場

相模原市緑区中野 1029 津久井商工会館 2F
TEL 042-780-0201 FAX 042-850-4830
例会日 毎週木曜日 時間 12:30~13:30
E-mail trc@club.email.ne.jp



第 1082 回 平成 28 年 10 月 13 日(木曜日)《13》

司会 井上 旭 SAA 会長 八木 勉会長 斉唱 奉仕の理想

会長挨拶 八木 勉会長

10 月になりまして色々イベント等があります。今日は地区大会と藤野のふる里まつりについて皆様のご協力を頂きたいので、後ほどの委員会報告の中でよろしくお願い致します。

まず、会長幹事会の報告をいたします。検討中だったさくら祭りですが、参加することになりました。日曜日の地区大会で司会者が 1 クラブ 15 秒位紹介をしてくれるそうで、その後にガバナー補佐が「地区最大の 11 クラブを誇る第 5 グループ」と言うそうですので、皆さん元気よくご起立をお願いします。

相模原東ロータリークラブで 11 月 7 日に財団補助金委員長の久保田さんをお呼びして「わかりやすいロータリー財団」という卓話を行うそうです。よろしければ参加して下さいという事です。

今日は商売、物流に関する江戸時代の話をしたと思います。

日本の近代化がイギリスなどと比べて非常に遅れていたという通念があると思いますが、18 世紀頃の江戸というのは世界一の大都市だと言われていています。なぜかという、人口が 100 万人以上で、しかもその大多数が消費者であり、

江戸は世界最大の消費都市と言われていました。ロンドンなどは 50 万人位だったのでそれと比べると非常に多いことになります。

当時の日本の特徴は江戸、大阪、京都の三つの都市がとても発展していて三大都市という時代でしたので、東海道五十三次というのは大変な意味を持っていました。四百数十キロメートルの間に五十三もの宿場があって、そこには宿屋もあり医療設備もあり、馬もいるということで素晴らしい交通網、旅行のシステムが出来上がっていたわけです。

江戸時代の人は東海道五十三次の旅は誰にとっても素晴らしい楽しみであり、その道中記もたくさん残されています。

また荷物に関して陸上ではなく、海上運送が行われていたそうです。江戸と大阪間は船で運び、定期便もあって極めて正確だったそうです。

明治二十年頃に郵便局の制度はほぼ日本全体に完成しました。それはやはり、江戸時代に飛脚の制度が発達していたことから、郵便局の制度も簡単にできたということです。

江戸時代の日本人はアイディアに優れていて、その当時に考えられた商売のやり方が、現在にも繋がっていることということですね。

【出席報告者 水野 茂委員長】

現在会員数	出席対象数	本会出席数	本会欠席数	本会出席率	前回修正出席率	前々回修正出席率
17	15	13	2	86.67%	92.86%	100%
本日欠席者	杉本会員、具会員					

